第 5 次中期計画 (2021年度~2025年度)

学校法人宫城学院

はじめに

1886年に創立した宮城学院は、2021年に創立135年を迎えます。2021年は、東日本大震災から10年を迎える年でもあり、また、新型コロナウイルス感染症によって生じた大きな変化のさなかでもあります。

これまで幾多の困難を乗り越えて来た先人たちの労苦に思いを馳せながら、社会的存在意義を 今後とも保ち続ける教育機関であるために、本学院の将来を見据えながら、今私たちがやるべき ことを明らかにするために第5次中期計画を策定いたしました。

2001 年度にスタートした中期計画は、5年ごとに見直しながら一定の成果を達成してきました。第5次となる今期は、大学進学者がいよいよ減少期に入る中、学生生徒等が成長を実感できる教育の提供が重要となります。そのために、最先端の教育手法の確立、一人ひとりに向き合ったサポートを行うなど、硬軟織り交ぜてこれまでも定評のある面倒見の良い教育を実践いたします。また、現在の桜ヶ丘キャンパスへの移転から40年が経過し、建物等の大規模修繕の実施が急務となりますが、教育・研究の基盤となる校舎等の維持・管理を適切に行ってまいります。

第5次中期計画は、中期ビジョンとして「未来を切り拓く知性、品性、共感力を身につけ、隣人愛をもって歩む女性を育成する」を掲げ、教育、研究、社会貢献、国際交流、経営ごとの重点ビジョン達成のために基本戦略、個別戦略を定めました。5年後のあるべき姿を具体的に見据えてPDCAサイクルをしっかりと回すことで、目指すべき宮城学院とすることを約束いたします。

その時々に社会から求められるものは変わりますが、アメリカの神学者ラインホールド・ニーバーの祈りの言葉である「変えられるものを変える勇気を、変えられないものを受け入れる冷静さを、そして両者を識別する知恵を与えたまえ」を常に心がけ、130余年の星霜を経て存立し続けてきた東北最大の女子高等教育機関として、本学院が果たすべき社会的使命をしっかりと見つめ、日々の教育研究活動を推進していく所存です。

理事長 海野 道郎

【宮城学院ロードマップ全体像】

中期ビジョン

基本戦略

個別戦略

数値計画

行動計画

建学の精神・共通の価値観

出所:SMBC 日興証券こうえき第5号 P12 有限責任監査法人トーマツの栗井氏の原稿参考

①中期ビジョン

法人の中長期的に目指す姿

②基本戦略

「ビジョン」を実現するために,誰にどのような価値を提供していくかを定めたもの

③個別戦略

「基本戦略」を実行するために、個別・具体的に 目指すべき方向を定めたもの

4数値計画

「基本/個別戦略」で実現すべき達成目標について定量的に定めたもの

5行動計画

個別戦略及び数値計画を実現するために必要な具体的施策

⑥建学の精神・理念

宮城学院の存在意義であり、最も重要 上記のビジョン・戦略・行動計画を支える基盤、 障害や危機を乗り越えていくためのよりどころ

第5次中期計画

第1 宮城学院の建学の精神

福音主義キリスト教の精神に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、 自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重 し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成すること

第2 スクールモットー

神を畏れ、隣人を愛する

第3 中期ビジョン 2025

未来を切り拓く知性、品性、共感力を身につけ、隣人愛をもって歩む女性を育成する

第4 項目別計画

1 教育

【項目別ビジョン】

自己を肯定し、隣人を愛し、持続可能な社会の実現に取り組むために必要な教養が 身に付くキリスト教に基づく教育を行う

(1) キリスト教教育の充実

本学院は、創設以来常に福音主義のキリスト教を基調として女子教育を行い、国際精神を養い、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成することを使命としてきた(寄附行為冒頭)。本学院の教育活動のすべての基本にキリスト教教育があることを再確認し、キリスト教教育の充実を図ることが重要となる。

<個別戦略>

- ▶ 礼拝を本学院の教育の礎とする
- ▶ キリスト教活動を充実する

(2) 本学院独自のリベラルアーツ教育を提供する

本学院は、リベラルアーツ教育を教育の基本に位置付けており、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法を身に付けることによって、自らの専門を活かしつ、他分野の人と協力して問題を解決することができるようになることを目指す。

<個別戦略>

- ▶ 学生・生徒が社会問題を発見し、問題解決能力を養うため、ボランティア活動 への積極的な参加を促す
- ▶ カリキュラムポリシーを見直す
- ▶ 世界を含む社会課題の解決を意識しつつ、SDGsの達成に貢献する人物を育成するプログラムを展開する
- ▶ 大学:豊かな教養の礎となる基礎学力を備える、中高:基礎学力の高い生徒を育てる、こども園:不思議に思う心、感動する心、思いやりの心の「3つの心」を育てる
- ▶ 学習支援の強化

(3) 本学院独自の女性教育を提供する

女子学校である本学院独自の教育プログラムを展開し、社会的視野で女性の生き方・働き方を考える。

- ▶ 社会で活躍している女性を招聘する特別科目を開設して、現代社会に貢献するために必要なことを学ぶ
- ▶ グローカルに活躍するリーダーを育成する

(4) 同じキャンパス内にあるメリットを活かした中高大一貫教育を提供する

すべての設置学校が同じキャンパス内にあることを活かして教育コミュニティを形成し、最長 10 年間にわたる一貫教育を展開する。

<個別戦略>

▶ 中高大連携を推進する

(5) キャリア支援を充実する

学生・生徒一人ひとりが持っている賜物を存分に活かすことができるよう、適時的 確な進路指導を行う。

<個別戦略>

- ▶ 多様化する学生・生徒の進路に向き合い、学生・生徒が本来持つ力が開花する ようにキャリア支援を行う
- ▶ 開放的なキャリア支援環境を実現する
- (6) 志と望みを持ち続けることができるよう、寄り添ってサポートし、退学を防止する

「誰一人取り残さない」をキャッチフレーズに、学生・生徒一人ひとりに向き合ったきめ細やかなサポートを展開する。

<個別戦略>

- ▶ 個人の志向や成長に合った、学生・生徒にとって充実した学校生活を送っても らうことを大切にする
- ▶ リメディアル教育を充実する(オンラインによる目標設定演習の実施など)
- ▶ 経済支援に関する情報発信と問い合わせに対応する
- (7) 時代に即した教育を展開する(激変する環境下で、オンラインを活用した Blended/Hybrid なプログラムを充実する等)

新型コロナウイルス感染症によって、オンライン授業の積極的な活用が行われることとなった一方で、対面授業の価値も再認識された。それぞれの良い点を組み合わせることで相乗効果が期待できることから、新たな教育手法や教育カリキュラムを展開する。

- ▶ オンデマンド、オンライン授業、対面授業をハイブリッドに組み合わせて新た な教育を提供する
- ▶ DX (デジタルトランスフォーメーション) を活用できるスキルを身に付けた 人材を育成するカリキュラムを提供する
- ▶ 学生・生徒が互いに切磋琢磨して学習する「個人に即した学びと共同的な学

び」の場を用意する

▶ ICT を活用した授業を展開する

(8) 多様化への対応

性、価値観、社会ニーズ、働き方など、様々なものが多様化している現代において、学校としてこれらのことに対応することが重要となる。

<個別戦略>

- ▶ 多様な学生・生徒を受け入れる
- ▶ 修学に対するニーズの個別化・多様化へ対応する
- ▶ 学生・生徒等の教育環境と人権を尊重する

(9) 学修成果の把握・可視化・評価への対応

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」において、教育活動の見直しや社会への説明責任の観点から、学修成果の把握・測定、可視化が重要となる。

<個別戦略>

- ▶ ディプロマ・ポリシーを見直して、学位にふさわしい学修成果を明記する
- ▶ 学修成果を測る適切な方法を開発する
- ▶ 全学的な教学マネジメントを実現する

2 研究

【項目別ビジョン】

社会の持続的発展を目指した学術研究を推進し、その成果を教育に還元し、地域や 世界に発信する

(1) 大学教員は、研究者としての成果を出し教育に還元することで、学生の挑戦心や 好奇心をかき立てるサイクルを確立する

大学教員は、担当する学問分野についての研究を学生に対する研究指導に活かしたり、社会に役立てることが使命といえる。したがって、大学教員が研究しやすい環境を整えることが重要となる。

- ▶ 教員の研究環境を整える
- ▶ 多様な研究力を引き出す研究支援体制を強化する
- ▶ 教職員及び大学院生の研究倫理観の涵養を図る

3 社会貢献

【項目別ビジョン】

社会課題を見いだし、解決して、社会の活性化に貢献する

(1) 福音主義キリスト教に基づく活動を積極的に展開する

現在行っているキリスト教講座の受講対象者を本学生涯学習受講者等に拡大し、内容及び回数の充実を図る。

<個別戦略>

- ▶ キリスト教講座を充実する
- (2) 自らの強みを社会に発信することによって、産業界や自治体と連携して収入を得て、地域社会の課題解決に貢献する

社会・地域貢献は、教育・研究とともに大学の使命の一つであり、本学の『知』を世の中に還元し、社会・地域の課題解決に積極的につなげることが重要となる。

<個別戦略>

- ▶ 地域の課題解決に努める教員をよりサポートしながら大学の価値を社会に発信する
- (3) 地域社会の教育ニーズに適応したプログラムを提供する

人生 100 年時代を迎え、働きながら学ぶことや心の豊かさや生きがいのために学ぶ ことを望むすべての女性のために教育を提供することが重要となる。

<個別戦略>

▶ 世代を超えて女性が求める教育を受けられるようにするため、生涯学習センター、大学院等のリカレント教育の場としての機能を充実する

4 国際交流

【項目別ビジョン】

学生・生徒の海外への派遣と海外からの受入れを積極的に展開し、東北地域の国際 交流の推進力とする

(1) 学生・生徒に国際交流の場を作る

学生・生徒の海外への留学に加え、海外からの留学生受け入れを積極的に展開し、 海外に留学せずともキャンパス内で国際交流を行うことができるようにする。

<個別戦略>

- ▶ 海外に留学する学生・生徒を増やす
- ▶ 留学生の受け入れを行う
- ▶ 気軽に多言語(英語など)交流ができる環境を整備する

5 経営

【項目別ビジョン】

本学院が社会的使命を果たし続けるために必要な基盤を整備する

(1) 【キリスト教精神】キリスト教的価値観を共有し、信頼関係に基づく経営基盤を 形成する

キリスト教学校の教職員であることを自覚し、本学院が果たすべき使命に純粋に向き合う雰囲気を醸成する。

<個別戦略>

- ▶ 教職員がキリスト教的価値観を共有する場のコンテンツを充実する
- ▶ 教職員礼拝を充実する
- ▶ キリスト教学校教育同盟との連携を強化して、教職員の研修参加を促進する ことによりキリスト教的価値観を共有する
- (2) 【内部質保証】本学院の教育研究等のさらなる発展のため、質の保証に取り組む本学の理念・目的、教育目標及び各種方針の実現に向けて、恒常的に改善・改革を促進するため、教育研究等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセスである内部質保証に取り組むことは重要となる。

<個別戦略>

▶ 内部質保証の方針及び手続を明文化し、各組織の責任、権限及び役割分担等の

関連性を規程により明示する

- ▶ 規程に即して点検・評価を実施し、その結果を基に全学的見地から改善を図る体制を整備する
- ▶ 入学定員の管理を徹底する
- ▶ 単位の実質化を図る

(3) 【人事】教職員を活性化し本学院の競争力を上げる

教職員が、モチベーションを持って本学の業務に取り組むことができるような人事制度の構築や本学院が望む教職員像を明確にして人事育成を行うことが重要となる。また、AIや RPA の導入を進め人の手を介する必要のない作業の縮減に努める。

<個別戦略>

- ▶ 教員組織の編成方針を明確にする
- ▶ 年功序列の評価だけではなく、他指標で教職員の目標を設定し、その達成度に応じた教職員の適正な評価を行う。教職員の果たすべき役割を明確にする
- ➤ FD・SD を充実し、ロールモデルに則した教職員の人材育成プログラムを展開する
- ▶ 教職員負担の軽減を図る

(4) 【広報】本学院が提供する教育の価値をステークホルダーに丁寧にわかりやすく 伝える

本学院が伝えたいことを、伝えたい人に伝えるために、学院内広報を充実して教職員の帰属意識を高め学院の活動を余すことなく伝えようとする雰囲気を醸成し、適切なコミュニケーション・チャネルを使って、効果的な広報を展開することが重要となる。

<個別戦略>

- ▶ 大学、中高の取り組みを的確に伝える広報を展開する
- ▶ 本学院の有力 OG に宮城学院大使として、広報活動について協力を仰ぐ

(5) 【施設】本学院を象徴する緑豊かで文化的なキャンパスは教育研究を支える基盤 として計画的に整備する

1980年に東三番丁キャンパスから桜ヶ丘キャンパスに移転してから 40年が経過し、建物等の経年劣化が激しくなっている。今期は大規模修繕が中心とならざるを得ないが、施設整備に当たっては、新しい生活様式を前提とした施設の在り方を検討し、環境負荷軽減にも配慮した計画を立案することが必要となる。

- ▶ 学生・生徒、社会のニーズに応じて変化する教育に適した新時代のキャンパスを整備し続ける
- ▶ オンキャンパス・拡張オンライン学修支援拠点及び拡張型学習支援拠点を形

成する

(6) 【財政】財政基盤の強化

中期ビジョン 2025 を実現するために設けられた基本戦略と個別戦略を実行するためには財政基盤の強化が不可欠である。学生・生徒等に確実に選ばれる魅力ある学院となることを最優先しつつ、本学の価値を発信し、外部資金を着実に増加させる必要がある。詳細は第4の第5次中期財政計画に記載。

<個別戦略>

- ▶ 中高財政を健全化する
- ▶ 競争的資金を積極的に獲得する
- ▶ 寄付金を獲得する
- ▶ 資産運用をさらに推進する

(7) 【人的資産】同窓会との連携

これまで輩出してきた6万5千人を超える同窓生は本学院の貴重な財産である。その同窓生で構成される同窓会との連携を深めることは、本学院の教育活動をより深化させることにつながる。

<個別戦略>

▶ 同窓会との連携を図る

第4 第5次中期財政計画(省略)